

オプティムが目指す AI・IoTの世界

株式会社オプティム
代表取締役社長

菅 谷 俊 二



現代を生きるわれわれは、どのような情報に対しても瞬時にアクセスでき、手のひらに収まるサイズまで小型化されたコンピューターを誰もが持ち始めたことにより、生活やコミュニケーションの在り方が変わり続けている。その世界の潮流の反面で、先進諸国では少子高齢化、担い手不足といった、各業界で共通の課題を抱えることも事実だろう。84.2歳という世界第一位の平均寿命（注1）を誇る日本もほかならず、課題先進国であることを忘れてはならない。

オプティムは2000年の創業以来、「ネットを空気に変える」というコンセプトを掲げ、今や生活インフラとなったインターネットを空気のように、特別なITリテラシーを必要とすることなく使いこなせる存在に変えていくことをミッションとし、事業を営む組織である。そして、15年に東京証券取引所第一部に上場後、「世界一、AI（人工知能）を実用化する企業になる」ことをスローガンに挙げ、第4次産業革命の時代に必要とされるサービスの立ち上げに取り組んでいる。

あらゆる産業の中でも、AIによって一番変化のチャンスが訪れやすいのが農業だ。現段階のAIの活用用途の多くは、効率化を推進するものだが、農業の場合、原価低減だけでなく、製品の付加価値を高めるこ

（注1） WHOより2018年に発表された統計に基づく。